

評論の読解について

〈1〉キーワード（キーセンテンス）の発見

「キーワード」とは……論理展開上「なくてはならない語」のこと。
 「あつた方がいい」「レベルの語をどれだけ削れるかがポイント」。

【キーワードを見つけてする方法】（以下の1〜3で、ほぼすべての文章に対応可能。）

《その1》繰り返される語句（内容）はキーワード。

重要な内容であれば、筆者は何度も繰り返さざるをえない。

《その2》接続語が出しているサインを見逃すな。

【接続語】とは……語句と語句・文と文の間に挿入できる語。下記の表参照。

接続語に注目することによって、重要な部分が識別できる。

《その3》二項対立はほとんど万能。

【ポイント】何と何が対応可能かを明確におさえること。

×「白いチョークと長いチョーク」

×「ウサギと両生類」

《補足》構文を意識せよ。（その言い方にはわけがある）

・譲歩構文「もちろんAだ。しかし、Bだ。」は、前述の内容の補強に過ぎない。

・疑問・反語、倒置法など、**素直ではない表現**は何かを印象づけるために用いられる。

〈2〉論理関係の把握（＝接続語の挿入）

キーワード（キーセンテンス）とキーワード（キーセンテンス）の論理関係を把握し、その関係が明確になるような**接続語**（もしくは記号）を文中に書き込む。

・重要と思われる部分に線を引いても、箇条書き状態では内容把握はできない。
 ・適切な接続語を挿入できないのは、論理関係が把握できていないということである。

〈3〉文章化（要約） → 〈戦略図〉を文章化するだけ。

【戦略図】の作成手順 キーワードと接続語を使って図示する。

① 一次要素（一番重要な語句・内容）：せいぜい10〜15文字

② 二次要素（次に重要な語句・内容）

③ 論理関係

【記述上の注意】 ①「網は広く打て」まず制限字数より多めに書き、それから削る。

②論理関係をごまかす表現は使わない。

「……」、「……が」、「……が」、「……そして」、「……そこで」等

【制限字数の目安】

二十字以下：一次要素のみ

三十字：一次要素十二次要素

五十字：一次要素十二次要素二個

★読解は作業として要約と実質的に重なる。

【関係一覧表】

一つの語で複数の項目に入っている場合もあるので注意すること。

分類	項目	内容説明	記入する接続語・記号
順接	① 繰り返し (説明)	同じ語（内容）が繰り返されているもの。 ※キーワード。重要な内容である。	「＝」の記号 「言いかえると」など
	② 補足	前述（後述）の語句や文の内容について説明しているもの。 ※修飾句相当として位置づけることができるもの。その場合、被修飾語がキーワードである可能性が高い。	「わかりやすく言うと」、「つまり」など
	③ 発展	「②説明」とは違い、前述の内容を踏まえて主張や分析を発展・深化させたもの。 ※この後に重要な内容がくる可能性が高い。	「さらに」 「とすると」など
	④ まとめ	前述の内容をまとめたもの。 ※この後に重要な内容がくる可能性が高い。	「つまり」「結局」 「要するに」など
	⑤ 理由・結果	理由（原因）・結果を説明するもの。	「なぜなら」（理由） 「だから」（結果）など
	⑥ 例示	「②説明」の一パターン。例による説明など。なお、この部分には論理展開の骨格部分はない。（論理展開の把握の際には、無視できる部分である。） ※この前か後ろに重要な内容があるはずである。	「例えば」など 「まるで」「～のような」 「もし」など
対比	① 逆接	前述の内容と相反する内容になるもの。 (必ずしも逆の関係になるとは限らない)。 ※二項対立を意識する。	「しかし」「だが」 「↑」「↓」の記号など
	② 対比	前述の内容と対比する内容になるもの。 (必ずしも逆の関係になるとは限らない)。 ※二項対立を意識する。	「しかし」「だが」 「↑」「↓」の記号
	③ 並列 添加	同様のレベルのものを並べるもの。 ※二項対立を意識する。 ※添加の場合、後ろの部分はやや軽くなる。	「第二に」「また」「～も」 「～の場合には」など
転換	転換	話題の転換をはかるもの。	「ところで」「さて」など

※段落冒頭の接続語には要注意……段落と段落の論理関係を表す方向指示器である。